

[TOPページ](#) > [特集一覧](#) > [小児甲状腺がん](#)  
> 小児甲状腺がん338人に～福島県民健康調査

小児甲状腺がん 2022/12/02 - 12:00

## 小児甲状腺がん338人に～福島県民健康調査

[ニュース](#) / [原発事故](#) / [公害・健康被害](#) / [保健・医療・福祉](#) / [原発](#) / [東日本大震災](#)

### 第46回「県民健康調査」検討委員会



[Twitterにシェアする](#)

[Facebookにシェアする](#)

東京電力福島第一原発事故後に福島県で行われている「県民健康調査」の検討委員会が3日、福島市内で開かれ、新たに12人が甲状腺がんと診断された。これまでに、県の検査によってがんと診断された子どもは296人となり、がん登録で把握された集計外の患者43人をあわせると、事故当時、福島県内に居住していた18歳以下の子どもの甲状腺がんは338人となった。

今回、新たに公表されたのは2022年6月30日までの検査結果で、穿刺細胞診の結果、悪性と診断された患者が5巡目だけで、新たに12人増えた。また手術をして甲状腺がんと確定した人は一人増え、237人となった。

穿刺吸引細胞診で悪性の疑いがあると診断された23人の前回検査（検査4回目）の結果は、L判定が7人、A2判定が11人、B判定が3人、未受診が2人で、平均腫瘍径は12.8±8.0mmであった。

<https://www.ourplanet-tv.org/45983/>

1/6

もいた。



## した甲状腺がんの人数

	対象者数	受診者数	B・C判定	2次検査 受診者	診断確定	A判定以外				手術済み がん
						穿刺細胞診			手術済み がん	
						受診者数	経過観察	悪性疑い		
1巡目	367,637	300,472	2,294	2,130	2,019	1,380	547	431	116	102
		81.7%	0.62%	92.9%	98.2%	66.0%	39.6%	78.7%	29.3%	101
2巡目	381,237	270,552	2,230	1,877	1,834	1,404	207	136	71	56
		71.0%	0.8%	84.2%	97.7%	76.6%	14.7%	65.7%	34.3%	56
3巡目	336,667	217,992	1,502	1,104	1,068	959	79	48	31	29
		64.7%	0.7%	73.5%	96.7%	89.8%	8.2%	60.8%	39.2%	29
4巡目	294,228	183,410	1,394	1,036	1,016	922	91	52	39	34
		62.3%	0.8%	74.3%	98.1%	90.7%	9.9%	57.1%	42.8%	34
5巡目	252,908	80,205	939	583	531	478	48	25	23	7
		31.7%	1.2%	62.1%	91.1%	90.0%	10.0%	52.0%	47.9%	7
節目	108,713	9,841	504	353	345	320	31	15	16	10
		9.1%	5.3%		97.7%	92.8%	9.7%	58.0%	42.9%	10
合計						5,367	987	703	296	がん237

1巡目は2018年3月30日、3巡目は2021年3月31日、2、節目は2022年3月31日、4、5巡目は2022年6月30日現在のデータ

## アンケートをめぐる県外と県内の委員が対立

事故から11年が経過し、「甲状腺検査」以外の検査は事実上、終了した県民健康調査。検討委員会の議題も初めて、甲状腺検査のみとなった。この日は、検査対象者と保護者向けのアンケート調査の質問項目をめぐる、議論が白熱した。

口火をきったのは、環境省の神ノ田昌博環境保健部長。アンケート項目に、「放射線被曝による健康影響は将来的にも見られそうにない」としているUNSCEAR（国連科学委員会）2020報告書の結論について、理解しているかを追加すべきだと強く主張した。また、検査の見直しなどを主張してきた宮城県立こども病院の室月淳産科科長や国立がん研究センター社会と健康研究センター検診研究部の中山富雄部長も、神ノ田氏の意見に賛同した。

これに対し、双葉郡医師会の重富秀一会長や福島県病院協会の佐藤勝彦会長は、県民にはさまざまな意見があると反論。一方的な意見を押し付けかねないと反対した。また、福島大学の富田哲特任教授は、甲状腺がんとなった当事者がどうおもうのかと強く反発。さらに、甲状腺がんが被曝によるものではないという意見が、検討委員会の結論となっているが、2巡目解析の際には意見が対立したと指摘。両論併記を求めたにもかかわらず、自分の意見は報告書に盛り込まれなかったと怒りをあらわにした。

アンケート調査は、甲状腺評価部会から要望が出ていたもの。甲状腺がんが、通常よる数十倍へ割合で見ついていることについて、精密な検査の結果、治療の必要のないがんを見つけているとする「過剰診断」論を主張する委員らが、検査の「デメリット」が県民に伝わっていないなどと、調査を求めている。来年度以降、無作為抽出した6,000人に対して、アンケートの質問票を付するとしている。